

## 1. 産業医学総合研究所刊行・発行物

名 称	発 行	規格, 部数	主な配布先・内容
1) INDUSTRIAL HEALTH *			
Vol.42 No.2	2004 . 4	A4, 214頁	配布先: 厚生労働省関係機関, 日本を含む世界各国の大学・研究機関・図書館, 民間企業. 内 容: 英文原著論文を主とした国際学術季刊誌, 年4回発行.
Vol.42 No.3	2004 . 7	A4, 87頁	
Vol.42 No.4	2004 . 10	A4, 71頁	
Vol.43 No.1	2005 . 1	A4, 267頁 各1,300部	
* 編集委員を次頁に掲載			
2) 産業医学総合研究所年報, 平成15年度版			
	2004 . 12	A4, 196頁 1,000部	配布先: 厚生労働省関係機関, 大学, 研究機関, 図書館. 内 容: 平成14年度研究成果の紹介.
3) 産医研ニュース			
第13号	2004 . 4	A4, 各8頁	配布先: 厚生労働省関係機関, 大学, 研究機関, 図書館. 内 容: 産医研の研究活動・社会貢献・その他の紹介. 年2回発行.
第14号	2004 . 10	2,200部	
4) 労働衛生重点研究推進協議会・第三年次報告書			
	2004 . 3	A4, 212頁 2,000部	配布先: 厚生労働省関係機関, 大学, 研究機関, 図書館. 内 容: 平成15年度労働衛生重点研究推進協議会活動報告.
5) 平成15年度研究評価報告書			
	2004 . 3	A4, 62頁 150部	配布先: 厚生労働省関係機関. 内 容: 平成15年度研究評価の報告.
6) 日本の労働衛生研究 登録課題			
	2004 . 3	A4, 80頁 1,000部	配布先: 厚生労働省関係機関, アンケートに回答した労働衛生関連研究者. 内 容: 労働衛生重点研究推進協議会の事業として, 平成15年2月から約1年間に国内労働衛生研究者が取り組んでいる研究課題をアンケート調査した結果の報告書.

## Industrial Health 編集委員一覧

---

<i>Editor-in-Chief</i>	Shunichi ARAKI
<i>Managing Editor</i>	Naomi HISANAGA, Junzo SAEGUSA (Vol.42, No.2)
<i>Advisory Editors</i>	Shixiong CAI, Ho-Keun CHUNG, Philippe GRANDJEAN, Masayuki IKEDA, Kaye H. KILBURN, Reiko KISHI, Bengt KNAVE, Kazutaka KOGI, Akira KOIZUMI, Shigeji KOSHI, Philip J. LANDRIGAN, Holger LUCZAK, Choong Nam ONG, Kathleen M. REST, Haruhiko SAKURAI, Thomas J. SMITH, Tsutomu TAKATA, Yasuhiro TAKEUCHI, Isamu TANAKA, Gerhard TRIEBIG, Osamu WADA, Sohei YAMAMOTO, Itaru YASUI
<i>Editors</i>	Takashi HARATANI, Mamoru HIRATA, Takeshi HONMA, Hideki IGISU, Seong-Kyu KANG, Norito KAWAKAMI, Yang-Ho KIM, Norihiko KOHYAMA, Shinji KOIZUMI, Shinji KUMAGAI, Lumie KURABAYASHI, Roberto LUCCHINI, Muneyuki MIYAGAWA, Kenji MORINAGA, Toshihiko MYOJO, Yasutaka OGAWA, Katsumi OHTANI, Akira OKAYAMA, Tsutomu OKUNO, Krishna Gopal RAMPAL, Susumu SAITO, Tadashi SAKAI, Hisataka SAKAKIBARA, Kazuhito YOKOYAMA, Ruisheng WANG
<i>Editorial Secretaries</i>	Mamoru HIRATA, Hitoshi KUBOTA

---

## 2. ホームページ

産業医学総合研究所のホームページ（URLは、<http://www.niih.go.jp>）は、本研究所の研究成果をはじめとする諸情報を多くの利用者に提供するとともに、広く社会から研究所業務への意見や要望を収集するために平成8年6月に開設された。その趣旨に基づき、今年度も各種更新作業を行った。平成17年3月31日現在のホームページの構成は以下のとおりである。“産業医学総合研究所のご案内”、“研究部の活動”、“産医研ニュース”、“研究情報”、“研究業績・成果”、“外部評価の結果”、“年報”、“国際学術誌Industrial Health”、“これからの日本の労働衛生研究戦略”、“独立行政法人としての公表事項”、“情報公開”、“研究施設ご利用のご案内”、“新着情報”、“お知らせ”、“関連サイトへのリンク”、“検索機能”、“利用者からの意見・質問・要望等の受付窓口”。

平成16年度は、研究成果物として昨年度に掲載した「パソコン利用のアクションチェックポイント」に引き続き、「オフィスの作業改善プログラム」と称したe-learningプログラムを掲載した。また、これまで日本語ページに比べ、大幅に内容が不足していた英文ページの充実を図るための準備作業を進め、その結果、来年度早々の公開の目途を得ることができた。その他、年間を通じて適宜、各種催事の開催案内、定期掲載物・各種報告結果の追加掲載等の定常的更新作業を行った。

今年度のホームページ総アクセス数は744,092件であり、日本語ページにおけるコンテンツ別の内訳は次の通りであった。

【日本語ページ】1位：国際学術誌Industrial Health，2位：研究情報，3位：研究業績，4位：トップページ，5位：産業医学総合研究所のご案内，6位：情報公開・個人情報保護，7位：産医研ニュース，

8位：お知らせ，9位：産業医学総合研究所に係わる公表事項，10位：年報

【英語ページ】1位：INDUSTRIAL HEALTH，2位：Research Achievements & Results，3位：Top Page，4位：Introduction，5位：Occupational Health Research Strategies in the 21st Century，6位：Link to Servers of Occupational Health，7位：Contact Us

今年度，info@niih.go.jpに寄せられた「問い合わせなど」の電子メールは211件であり，そのうち研究所の研究成果を含む「技術的な情報の提供依頼」は69件であった。

### 3. テレビ，ラジオ放送，新聞等

#### (1) テレビ放送

発表先	氏名
1) NHK総合テレビ「おはよう日本 土曜特集 “職場に求む頭痛対策”」(平成16年6月19日)	原谷隆史
2) フジテレビ「とくダネ! “アスベストの特集”」(平成17年1月6日)	芹田富美雄， 神山宣彦
3) TBSラジオ「荒川強啓デイ・キャッチ “昼寝と仕事の効率”」(平成16年11月15日)	高橋正也

#### (2) 新聞等

発表先	氏名
1) 日本農業新聞「不眠症は4人に1人」(平成16年4月10日)	高橋正也
2) 東京新聞「組織内のストレスチェック」(平成16年5月8日)	高橋正也
3) 法研「旬刊健康管理情報 健康のひろば」6月1日号(1501号)「受動喫煙で動脈硬化も」	中田光紀
4) 日本農業新聞「みんなで快農宣言 - 振動 - 対応遅れる農機」(平成16年9月22日)	前田節雄
5) 朝日新聞「鉄骨工，肺がん死3倍：1万7千人産医研調査 石綿作業と関連か」(平成16年10月23日夕刊)	久保田 均
6) Science & Technology Journal「独立行政法人産業医学総合研究所 働く人を職業病などから守る」(2004年10月号)	本間健資
7) メディカルトリビューン「2004免疫毒性・アレルギー学会 GHSの概要 化学品の危険・有害性情報が世界共通の認識に」(2004年10月21日号)	宮川宗之
8) AERA(朝日新聞社)“有機溶剤・電磁波と生殖機能”(2004年12月27日号)	平田 衛， 三枝順三
9) 週刊朝日(朝日新聞社)“新たな週へのストレス，ブルーマンデー”(2005年2月18日号)	大塚泰正

## 4. 講演会の開催

### (1) 労働衛生重点研究推進協議会シンポジウム

産業医学総合研究所が主宰する「労働衛生重点研究推進協議会」の活動の一環として平成16年11月5日に新宿明治安田生命ホールにおいて第4回公開シンポジウムを開催した。この労働衛生重点研究推進協議会シンポジウムは、「21世紀の労働衛生研究戦略」がどのようなもので、これからの約10年間にどのように効果的に戦略を推進していくかを講演とディスカッションを通して考える場である。本年度から第II期にはいったことに鑑み、今回は「21世紀の労働衛生研究戦略の推進と展望、厚生労働科学研究費補助金研究事業より」という副題の基で、現在行政が対応を求めている緊急課題に関する最新研究情報を提供することを目的とした。今回の講演は3部から構成されており、第一部 有害性機序の解明に関する研究では「重点領域：職場有害因子の生体影響に関する研究領域」から優先課題「化学物質の有害性評価」「人間工学的因子と生体負荷」に関連する3演題、第二部 産業社会の変化により生ずる労働生活と健康上の課題に関する研究では「重点領域：産業社会の変化により生ずる労働生活と健康上の課題に関する研究領域」から優先課題「メンタルヘルスと産業ストレス」に関連する3演題、第三部 管理方策に関する研究では「重点領域：リスク評価と労働安全衛生マネジメントシステムに関する研究領域」のから優先課題「健康影響指標の開発とリスク評価」「リスクコミュニケーションの効果的な進め方」「企業経営と労働安全衛生マネジメントシステム」に関連する3演題を取り上げた。当日は200余名の参加者が熱心に聴講した。これ等の講演により紹介された研究とその最新成果より、現在行政が対応を求めている緊急課題を厚生労働科学研究費補助金研究事業の面から概観できた。

---

### プログラム

---

挨拶 櫻井 治彦会長（中央労働災害防止協会労働衛生調査分析センター所長）  
挨拶 阿部 重一（厚生労働省労働衛生課長）

#### 第一部 有害性機序の解明に関する研究

座長 高田 勲（（独）労働者健康福祉機構医監・中央労働災害防止協会技術顧問）  
日下 幸則（福井大学医学部国際社会医学講座環境保健学領域教授）  
1）遺伝子改変動物を用いた有害化学物質の毒性機序の解明とリスク評価への応用  
那須 民江（名古屋大学大学院医学系研究科環境労働衛生学教授）  
2）上肢における筋骨格系障害の診断と防止に関する研究  
平田 衛（（独）産業医学総合研究所企画調整部国際研究交流情報センター）  
3）職業運転手における腰痛予防に関する調査研究  
伊藤 博元（日本医科大学整形外科学教室教授）

#### 第二部 産業社会の変化により生ずる労働生活と健康上の課題に関する研究

座長 藤村 伸（社団法人日本医師会常任理事）  
河野 啓子（日本赤十字北海道看護大学教授）  
4）うつ病を中心としたこころの健康障害をもつ労働者の職場復帰および職場適応支援方策に関する研究  
島 悟（東京経済大学経営学部教授）  
5）労働者の自殺原因に関する研究 - 特に医師の自殺原因とその予防対策について -  
織田 進（産業医科大学産業医実務研修センター教授）

- 6) 労働者の自殺リスク評価と対応に関する研究  
永田 頌史 (産業医科大学産業生態科学研究所教授)

2) 高齢者の労働適応能力の評価(重点領域)

第 部 管理方策に関する研究

- 座 長 二塚 信 (熊本大学大学院医学薬学研究部公衆衛生・医療科学分野教授)  
井谷 徹 (名古屋市立大学大学院医学研究科労働・生活・環境保健学分野教授)

7) 職域の健康障害における作業因子の寄与と予防に関する研究

佐藤 敏彦 (北里大学医学部衛生学公衆衛生学助教授)

8) 今日の労働環境と労働衛生活動

矢野 栄二 (帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座教授)

9) 今後の産業保健のあり方に関する研究 健康被害に関するクライシスマネジメントにおける  
現行産業医制度の法的問題

小泉 昭夫 (京都大学大学院医学研究科環境衛生学教室教授)

挨 拶 荒記 俊一副会長 ((独)産業医学総合研究所理事長)

---

当初予定していた「今後の産業保健のあり方に関する研究」は主任研究者東教授急病のため、講演者は同班の分担研究者小泉教授に交代している。

(2) 第1回「アジア労働衛生研究センター会議」(平成16年9月29日～10月1日)

東アジア及び東南アジアの7カ国と1地域の労働衛生研究センター職員(16名)を招聘して、第1回「アジア労働衛生研究センター会議」を開催した。初日の公開シンポジウムではアジアの各国・地域が当面する労働衛生上の課題を協議した。約70名の国内の専門家の参加があった。2日目は国内の工場見学を行った。3日目のワークショップでは各国・地域の行政付属の労働衛生研究機関が一堂に会し初めてアジア地域での連携を協議した。

---

平成16年9月29日(水)：公開シンポジウム(後楽園会館，東京)

---

挨拶 荒記俊一理事長(産医研)

佐々木邦臣室長補佐(厚生労働省安全衛生部国際室)

会議目的の説明：久永直見国際センター長(産医研)

海外参加者紹介：毛利一平主任研究官(産医研)

報告

日本: 荒記俊一理事長(産医研)

韓国: Dr. Seong-Kyu Kang, Occupational Safety and Health Research Institute

中国: Prof. Yuxin Zheng, National Institute for Occupational Health and Poison Control

報告

台湾: Dr. Tung-Sheng Shih, Institute of Occupational Safety and Health

フィリピン: Dr. Maria Beatriz G. Villanueva, Occupational Safety and Health Center

ベトナム: Dr. Nguyen Thu Ha, National Institute of Occupational and Environmental Health

報告

タイ: Dr. Somkiat Siriruttanapruck, Bureau of Occupational and Environmental Diseases, Ministry of Public Health

マレーシア: Dr. Agus Salim Mohd Banon , National Institute of Occupational Safety and Health  
インドネシア: Dr. Zulmiar Yanri , Ministry of Manpower and Transmigration

---

---

### 平成16年9月30日：国内の労働衛生関連施設の見学

---

午前： 中央労働災害防止協会訪問

講義：後藤博俊

中央労働災害防止協会と産業安全教育の三次元視聴覚劇場の紹介

午後： 工場訪問

第一グループ： J R 東日本大宮工場

第二グループ：京浜島工業団地

---

---

### 平成16年10月1日：ワークショップ（産業医学総合研究所，川崎）

---

セッション 1: 有害物による健康障害 / 職業病統計

Prof. Tao Li, National Institute of Occupational Health and Poison Control, 中国

Recent major research activities in National Institute for Occupational Health and Poison Control

Dr. Chiou-Jong Chen, Institute of Occupational Safety and Health, 台湾

Perspective and Review of Occupational Disease Prevention in Taiwan

Dr. Hoang Minh Hien, National Institute of Labour Protection, ベトナム

The situation of hearing loss among workers exposed to organic solvent

Dr. Suyoto, Indonesian National Safety and Health Council, インドネシア

Rice-millers syndrome

Dr. Rui-Sheng Wang, National Institute of Industrial Health, Japan

Inter-individual differences in the susceptibility to workplace chemicals

セッション 2: 有害物曝露評価と労働衛生工学

Dr. Jae-Kil Jang, Occupational Safety and Health Research Institute, 韓国

Struggling in industrial hygiene monitoring program in Korea

Dr. Tung-Sheng Shih, Institute of Occupational Safety and Health, 台湾

Exposure Assessment and Control of Hazardous Substances in Taiwan

Engr. Melba Faylona Marasigan, Occupational Safety and Health Center, フィリピン

Occupational hazardous substance exposure monitoring and industrial hygiene measures

Mr. Fadzil Osman, National Institute of Occupational Safety and Health, マレーシア

Organic Solvent Exposure Among Malaysian Workers in Selected Industries

明星敏彦主任研究官（産医研）

Work environment at mountain tunnel construction sites in Japan

セッション 3: エルゴノミクス / 有害物理因子の対策

Ms. Preeyanun Likhitsan, National Institute for the Improvement of Working Condition and Environment, タイ

Pilot study of ergonomics procedure for the improvement of local muscular workloads in Thailand

澤田晋一主任研究官（産医研）

Needs of international collaboration for occupational thermal stress research in Asian countries

外山みどり主任研究官（産医研）

“ Free-address ”, a new office style in Japan

セッション4：産業疲労／メンタルストレス

Dr. Seong-Kyu Kang, Occupational Safety and Health Research Institute, 韓国

The present issues on stress in Korea

Dr. Maria Beatriz G Villanueva, Occupational Safety and Health Center, フィリピン

Occupational safety and health conditions in call centers in the Philippines

原谷隆史研究調整官（産医研）

Recent advances and future directions in job stress research

総合討論（共同研究，相互支援，将来計画）

閉会の挨拶： 荒記俊一理事長（産医研）

---

### (3) 「21世紀の公衆衛生と産業保健に関する中日国際シンポジウム」(平成16年8月19日～21日)

中国安徽省科学技術協会及び産業医学総合研究所の主催で「21世紀の公衆衛生と産業保健に関する中日国際シンポジウム」を中国安徽省合肥市で開催した。中国側からは中国政府の政策決定に関わる工程院院士の方々と主要大学の教授が代表として出席した。

開催期間：2004年8月19日～21日

大会長：中国三?職業技術学院金会慶院長，副会長：産業医学総合研究所荒記俊一理事長。

後援機関：国連の事務総長オフィス，WHO，ILO，厚生省（中国），中国工程院医工学部門等。

講演内容：

基調講演1 交通事故の予防対策（大会名誉会長，王正国中国工程院院士）

基調講演2 中国の交通事故の疫学研究（金会長）

基調講演3 日本の21世紀労働衛生研究戦略（荒記副会長）

分科会

1. AIDS. HIV/AIDS：21世紀公衆衛生への最大の挑戦（木原正博京都大学教授），HIV/AIDS:中国における潜在的流行（張孔来中国政府AIDS予防治療専門家委員会委員長），東京都のAIDS対策（増田和貴東京都健康局医師）。

2. SARS. 2003年と2004年の中国におけるSARSの突発（烏正北京協和医科大学教授），日本の感染症対策：SARSの教訓（重松美加国立感染症研究所主任研究官），2003 - 2004の北京におけるSARSの流行と対策（梁万年首都医科大学教授），SARSコロナウイルスの新しい検出法（森田公一長崎大学教授），東京都のSARS対策（増田東京都健康局医師）。

3. 疫学・地域保健．疫学の公衆衛生における役割（吉村健清日本疫学会理事長），日本のガン発生率と死亡率（古野純典九州大学教授），日本の健康保険制度の発展経緯と課題（小林廉毅東京大学教授），保健サービスのコストと質（今中雄一京都大学教授）。

4. 環境保健. 職業・環境医学における化学物質の非顕性健康影響（横山和仁三重大学教授），マレーシアの農薬中毒（Rusli Bin Nordinマレーシア科学大学教授），有機リン農薬曝露による催奇形性と発生毒性（田英上海第二医科大学教授），職業性温熱ストレス評価の国際動向と課題（澤田晋一産医研主任研究官），化学物質の健康影響の個人差と遺伝子多型（王瑞生同主任研究官），欧州における筋骨格系障害の筋電図学的研究の動向（上野哲同研究員）。

5. 産業保健．防塵マスクの国際基準（明星敏彦同主任研究官），職業性振動障害の予防戦略（前田

節雄同主任研究官), オゾン層破壊物質代替品による健康障害予防の国際協力(久永直見同国際センター長), マレーシア製材工場労働者の肺障害の予防対策(Lin Naingマレーシア科学大学副教授), 職業性ストレスの予防対策(原谷隆史産医研研究調整官), 鉛中毒の最近の症例(北村文彦同研究員)。

#### (4) 産業医学総合研究所国際セミナー

##### 第4回産業医学総合研究所国際セミナー (平成16年7月9日, 産業医学総合研究所)

##### 「溶接と健康 - 溶接作業者の健康保持を目指して」

演題名	講演者名
1) 溶接作業者の健康に関する最近の問題 - 溶接作業者のパーキンソン様症候群とマンガン曝露を中心に -	Grant McMillan (英国海軍軍医准将, 国際溶接会議「衛生・安全(Health and Safety)委員会」委員長)
2) 韓国における溶接作業者の健康問題	久永直見(産医研)
3) マンガンの分析方法に関する文献レビュー	鷹屋光俊(産医研)
4) 高分解能分析電子顕微鏡による溶接ヒュームの観察 - 特にマンガンの存在状態について -	神山宣彦, 篠原也寸志(産医研)
5) TIG溶接と溶接棒研削によるトリウム232飛散に関する環境測定	斉藤宏之, 他(産医研)
6) アーク溶接作業における青光障害の防止に関する遮光保護具の有効性について	奥野 勉, 他(産医研)

##### 第5回産業医学総合研究所国際セミナー (平成16年11月11日, 産業医学総合研究所)

演題名	講演者名
1) Physical work environment research in Sweden with special regards to thermal stress.	Ingvar Holmer 博士 Professor, Department of Design Sciences, Technical University of Lund Former Professor, National Institute for Working Life, Sweden
2) NIOSH and ASTM Methods for Workplace Exposure Measurements	Kevin Ashley博士 Chair, ASTM Subcommittee on Workplace Atmospheres, CDC/NIOSH, USA

## 5. 研究所の一般公開

産医研の研究調査活動を広く一般に知ってもらうために、平成16年4月25日(日)に研究所の一般公開を行った。今回は「労働衛生って、なに？」という一般の人が持っていると思われる素朴な疑問を一般公開ポスターのキャッチコピーに掲げて、労働衛生の研究成果や調査結果をできるだけ分かりやすく表現することに務めた。また、できるだけ多くの参加者を募るために、例年は土曜日に開催していたのを今年は日曜日に実施し、ポスターを地元町内会はじめ各方面に多数配布したことから、今年の参加者は昨年の倍の約130人に達し大変盛況だった。

### 【公開プログラム】

約2時間半コースを午前10時と午後2時の2回。

1. 歓迎挨拶(炭山)

2. 産医研の紹介(宮川)

3. 講演

パソコンは頼れるあなたのパートナー!? - 使っても使われない, パソコンとの付き合い方 - (毛利)

化学物質による健康影響にも個人差がある(王)

ディーゼル微粒子に含まれる化学物質(小野)

4. 施設見学

電子顕微鏡室(芹田, 篠原), 音響振動実験施設(前田, 高橋), 人工環境室(澤田), 工学実験施設(菅野, 柴田)

5. 体験コーナー

心臓模型と心音“見よう聞こう心臓”(田井), 心拍変動“心拍のゆらぎ”(岡), サーモグラフ“顔色を温度でみよう”(毛利), 環境測定“結果はその場で知りたい-リアルタイム測定のいろいろ-”(鷹屋), 心肺機能“あなたの全身持久力”(久永), 疲労度チェックリスト(久永)

6. 研究ポスターの展示

1. アンケート調査による粉じん作業場の労働衛生管理状況についての解析(齊藤ほか)

2. 室内環境粒子に含有される有機成分の粒径別迅速GC/MS分析(小野ほか)

3. パソコン利用の実践マニュアル(アクション・チェックポイント)の開発(岩切ほか)

4. DNAマイクロアレイ法を用いた亜鉛とカドミウムの標的遺伝子の比較(山田ほか)

5. CEを用いた六価クロムの分析(鷹屋)

6. 今後の石綿(アスベスト)ばく露防止管理(神山)

7. ラットの精子とその分析方法(大谷)

8. ハロゲン化プロパン類のラット精子への影響(大谷ほか)

9. 曝露影響モニタリングへの利用を目的とした遺伝子発現パターン解析(三浦ほか)

今回の公開に90%の参加者から「良かった」と「大変良かった」という評価をいただいた。具体的な感想も多数寄せられた。そのうちの一部を紹介すると、「今まで何の研究所か分からなかったが、とても面白かった(30代)」、「講演は素晴らしい内容と思われたが、少し私たちには難しかった(主婦)」、「体験コーナーは良い企画だと思います(60代)」、「体験コーナーを特に子供用にもっと充実させれば(40代)」、「とても楽しかった(小学2年生)」、「非常に興味深く来年もまた来たいと思います。子供が科学技術を身近に感じてくれたらうれしい(30代)」、「もう少し宣伝したら多くの方が参加されるのではないかと。道順がわかりにくかった(50代)」など、来年の公開に参考となるご意見もいただいた。

## 6. 見学者等への対応

平成16年度に団体並びに個人として研究所の見学等をした例は、下記のとおりである。

- ・ 労働政策研究・研修機構労働大学校労働衛生専門官研修（29人と教官1人，講義と所内研究施設見学）
  - ・ 厚生労働大臣政務官と同秘書官（2人，研究所紹介と所内研究施設視察）
  - ・ 厚生労働省安全衛生部長と同計画課職員（2人，研究所紹介と所内研究施設視察）
  - ・ 厚生労働省安全衛生部安全衛生課長と同主任中央じん肺診査医（2人，研究所紹介と所内研究施設視察）
  - ・ 厚生労働省安全衛生部化学物質対策課長と同業務班業務係長（2人，研究所紹介と所内研究施設視察）
  - ・ 横浜労災病院部長と産業医（6人，研究所紹介と所内研究施設見学）
  - ・ 陸上自衛隊部隊医学実験隊（8人，研究所紹介と所内研究施設見学）
  - ・ 第9回産医研 - 産生研 研究交流会に伴う所内見学（4人，所内研究施設見学）
  - ・ JICA公衆衛生行政管理セミナー研修（28人と引率・研修管理員4人，研究所紹介と所内研究施設見学）
  - ・ JICA労働安全衛生政策セミナー研修（8人と研修管理員1人，研究所紹介と所内研究施設見学）
  - ・ JICAエジプト研修（1人と研修管理員1人，研究所紹介，所内研究施設見学と講義）
  - ・ 英国HSE他（6人，所内研究施設見学）
  - ・ 相模原市環境事業部相模台収集事務所安全衛生委員会（13人，講義）
  - ・ 陸上自衛隊部隊医学実験隊研究員（1人，所内研究施設見学と説明）
  - ・ 東京大学医学部学生（2人，研究所紹介と所内研究施設見学）
  - ・ 東京女子医科大学産業保健実習（8人と助手1人，講義と所内研究施設見学）

その他，取材等による見学者を随時受け入れた。見学に際しては，希望者の専門分野及び要望等に応じて，柔軟に対応した。